

文化遺産総合活用推進事業 実施計画

1 都道府県・市区町村名	栃木県真岡市	2 補助事業の種類	地域文化遺産活性化
3 実施計画の名称	真岡の文化遺産発信事業		
4 実施計画期間	平成 27 年度 ～ 平成 29 年度		
5 実施計画の概要			
<p>【文化財への取り組み】 真岡市は栃木県の南東部に位置し、東に連なる八溝山地、西に流れる大河鬼怒川を抱える自然環境豊かな都市で、古くから芳賀地方の政治、経済、文化の中心的役割を担い、江戸時代には「真岡木綿」の特産地として全国にその名が知られていた。また、市内には親鸞聖人ゆかりの専修寺(国指定史跡)をはじめ、国・県・市指定の文化財212件、国・市の登録文化財16件を有し、豊かな有形・無形の文化遺産を今日に継承している。しかしながら、社会環境の変化などによって、散逸しつつある未指定・未登録の文化財は少なくなく、また真岡を代表する伝統的産業の木綿も輸入綿糸流入などで衰退するなど、先人たちが育んできた貴重な財の数々が消滅していく危機に直面してきた。</p> <p>こうしたなか、本市では、平成27年度に策定した第11次市勢発展長期計画において、施設整備による地域活性化と「真岡」の文化芸術の市内外への発信を位置づけており、平成26年10月には、明治・大正期の歴史的建築物が現存する「久保邸」をリノベーションした「久保記念観光文化交流館」を開設し、市の新たな観光文化拠点施設とするなど、文化遺産を活用しその魅力を内外に発信していく取り組みを展開している。</p> <p>【3か年事業計画の経過】 平成27年度に実施した第1回真岡文化遺産フェスティバルでは、市の芸能文化を総合的に発信し、代々継承されてきた伝統芸能を中心に無形文化財の魅力を訴求してきた。平成28年度事業では、かつて下野国桜町領（現在の真岡市）の復興に尽力し大きく貢献された二宮尊徳ならびに、二宮尊徳にゆかりのある有形文化財を広く発信し、新たな観光ブランドの醸成に努めてきた。</p> <p>【29年度事業の実施計画】 3か年事業の集大成となる平成29年度事業では、真岡市を東国布教の重要な拠点として浄土の教えを弘めることで、東国の多くの人々の心を救い導き支えとなり、中世以降の同市の文化形成、発展、繁栄の礎となり多大な影響を与えた「親鸞聖人」を主要の題材とする。</p> <p>真岡城主大内氏の懇願により建てられたと伝えられ、初期の東国布教の拠点として重要な役割を果たした本寺「専修寺」。親鸞聖人の帰京後に、「高田門徒」と呼ばれ隆盛を極めるまで教団を発展させた門弟「真佛上人、顕智上人」。顕智上人が姿を消された後から、上人の祥月命日に、徹宵して上人を尋ね求める風習で、現在まで継承される本寺最大の行事「高田待ち」。そして、親鸞聖人が東国へ赴く頃から、聖人を慕い参詣する越後の多くの人々が真岡の地へと移り住み、真岡の地に根付き伝承されてきた上越地方発祥の民俗芸能「八社五社」。</p> <p>これらの歴史人物とその功績、史跡、行事、伝統芸能は、市の歴史を成す貴重な財産であり、地域の語り部により伝えられ、長きにわたり地域への愛着と誇りを醸成し市民のコミュニティの形成に重要な役割を果たしてきた。しかし、現在では市を象徴する有形・無形の文化財の多くは、少子高齢、人口流出などの問題により、保全と継承が危ぶまれている。</p> <p>そこで、29年度事業では、真岡市の歴史と文化形成の中心的存在のひとりである親鸞聖人、ならびに聖人ゆかりの有形・無形の文化財を、中世以降の真岡市の歴史に準え広く紹介し発信する各種イベントを実施する。これにより、市民の文化財への更なる関心を高め理解を深めることと同時に、市内外に広くその魅力と価値を伝えることで、全国から多くの誘客を図る。そして、3か年事業の経験と実績、ノウハウを活かし、事業終了後も継続的に事業の効果が得られるよう市民自らが積極的に参加する保全と継承の確固たる体制を構築する。</p> <p>また、2017年は栃木県立博物館の開館35周年に際し、東国を治め、数々の功績を残してきた関東を代表する名族武士団、宇都宮氏ならびに、親鸞聖人をはじめとする歴史人物、史跡、文化財が大々的に紹介される「栃木県立博物館開館35周年記念特別企画展」が開催される。そこで、本事業のイベントを企画展の開催期に合わせることで、共同で事業告知・集客を行うことなど、協力体制をつくり企画展と本事業を連動させることで相互のシナジー効果を最大化し、有形・無形文化財を軸とした真岡市の観光ブランドの再構築と、地域活性を果たす。</p> <p>以上をふまえ、下記の取り組みを実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化遺産コンシェルジュ育成事業 2. 真岡文化遺産フェスティバルの開催 <p>*当初計画していた「真岡の文化遺産に関する総合的な情報発信事業」（地域文化財のパンフレット制作）は事業予算の縮小により実施しないこととする。</p>			
6 実施体制			
<p>真岡市が、本実施計画に係る全体の企画・調整や、補助事業に係る指導等を行う。主な担当課、役割は以下のとおり。</p> <p>文化課：事業全体の調整、文化財の取扱い等に関する指導・調整等 商工観光課：観光業務に関する連携等</p> <p>また、補助事業は次の団体が実施する。 真岡の文化遺産発信事業実行委員会（委員長：真岡市長 井田隆一） 構成団体（真岡市、真岡市教育委員会、真岡市議会、真岡市文化財保護審議会、真岡市文化協会、真岡市観光協会、真岡商工会議所、にのみや商工会、下野新聞社（H28年度～）で構成）</p>			

7 実施計画における目標と期待される効果		別紙①のとおり	
8 補助事業の概要	(1) 補助金額	～平成28年度交付決定額： 10,645 千円	平成29年度申請額： 9,044 千円
		(2) 実施事業の概要 別紙②のとおり	
9 その他計画実施により想定される効果（定性的な効果を記載）			
<p>【人材育成】 文化遺産を活かした地域活性化の取り組みにおいて、前記の情報発信事業とともに重要な視点は、市民による「おもてなし」の心の醸成であると考え。真岡市では「もおか観光コンシェルジュ」と命名した市民による観光ボランティア制度を導入しているが、本事業によりガイドたちのスキルアップを実現するとともに、文化遺産の知識を学ぶ講座を通して、新たなコンシェルジュを育成し、内外の来訪者を迎えるためのホスピタリティの環境を整備できることが期待できる。</p> <p>【普及啓発】 (1) 地域に継承される伝統芸能の数々や地域固有の歴史や伝統に親しむことにより、市民が地域の有形・無形の文化遺産の魅力を再発見し、文化遺産ならびに文化財継承に対する意識の高揚を図る絶好の機会となる。シンポジウムでは、歴史と文化を様々な視点や観点から深く知ることができ、舞台公演と史跡を巡るツアーでは、五感を刺激する深い感動の体験により歴史、文化への共感と理解を醸成できる。</p> (2) 地元の伝統芸能団体の多くの上演機会は、地域の祭礼や小規模イベントなどに限られ鑑賞者数と上演機会ともに多くはない現状で、著名な古典芸能の役者と共演する舞台で多くの観客を前にして上演することで、自らの芸能に誇りと愛着の意識が高まり、今後の活動の活性化が期待できる。 (3) 本事業の題材とする親鸞聖人は、真岡の地の歴史と文化の形成と発展に大きく影響を与えた人物であり、一方で全国的認知度が高く、その人格、思想、行動に多くの共感と尊敬の念を集めることから、今後の真岡市の文化財を軸とした新たな観光ブランドを確立していくうえで、市民、観光客、企業など様々なステークホルダーをつなぎ、相互交流と一体感を生み出す重要な資源となる期待があり、普及啓発事業を契機に保全継承活動に向け市民や民間主導による協働と連携の継続的かつ強固な体制を築くことができる。			
10 その他事業（自主財源、民間団体、他省庁等からの補助（支援）を予定している事業など）			
事業概要：			
事業概要：			
事業概要：			
11 「歴史文化基本構想」の策定や「歴史的風致維持向上計画」の作成・認定に向けた計画の見込等			
なし			
12 担当部局			
地方公共団体 担当部局課	真岡市教育委員会 文化課 文化振興係		

7 実施計画における目標と期待される効果 別紙

目標区分 1 :	地域の文化資源を活用した集客・交流					
評価指標区分 1 :	地域の文化遺産への来場者数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 1 :	地域の文化遺産(本寺専修寺と市内の国・県・市指定の文化遺産)への来場者数			関連事業:	①②③④	
目標値 1 :	平成 27 年度	7,969 名	⇒	平成 29 年度	8,459 名	
設定根拠 1 :	各年度とも前年度来場者数に伸び率3%を乗じた人数を設定					
進捗状況 1 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
名	名	7,969 名	8,208 名	名	名	
		0%	49%			
目標区分 2 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 2 :	地域の祭礼行事等への入込客数 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 2 :	祭事「高田待ち」への地元住民と市外からの入込客数			関連事業:	②③④	
目標値 2 :	平成 27 年度	18,200 名	⇒	平成 29 年度	19,308 名	
設定根拠 2 :	平成28年度までの毎年度平均伸び率0.3%に対し、2倍の0.6%を設定					
進捗状況 2 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
名	名	18,200 名	18,746 名	名	名	
		0%	49%			
目標区分 3 :	地域の文化資源を核としたコミュニティの再生・活性化					
評価指標区分 3 :	地域に誇りを感じる住民の割合 (具体的な指標は次のとおり)					
具体的な指標 3 :	住民意識調査の「文化財の保護・継承意識」の割合			関連事業:	②③	
目標値 3 :	平成 28 年度	91.2 %	⇒	平成 29 年度	91.2 %	
設定根拠 3 :	平成23年度～平成28年度までの毎年度平均伸び率▲0.22%のため、横ばいの91.2%を設定					
進捗状況 3 :	各年度、状況値、目標に対する達成率					
平成 年度	平成 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
%	%	91.4 %	91.2 %	%	%	
		#DIV/0!	#DIV/0!			

事業④：	真岡文化遺産フェスティバルの開催（ウォーキング・ツアー）		実施団体：	真岡の文化遺産発信事業実行委員会			
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 29 年度 ～ 平成 29 年度			
事業概要：	来場者への親鸞聖人を通じた真岡市文化遺産の理解促進と、本事業での観光ガイド養成事業の成果発表と実践を目的に、フェスティバルへの来場者を対象に、全行程1時間の「親鸞聖人の史跡を巡る」ウォーキング・ツアーとして実施する。						
評価指標区分：	・その他			(具体的な指標は次のとおり)			
具体的な指標：	事業終了後に、旅行会社、鉄道・バス会社などによる新規ツアー造成数						
目標値：	平成 27 年度		12 件		⇒ 平成 29 年度		20 件
進捗状況：	各年度、状況値、目標に対する達成率						
平成	年度	平成	年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
	件		件	12 件	15 件	件	件